

国際ロータリークラブ第2730地区

日南ロータリークラブ

Rotary



WEEKLY REPORT



会長 築瀬 敦

= 築瀬 敦会長スローガン =

“ロータリーのマジックを信じ 地域にマジックを掛けよう”

- 例会日:毎週水曜日 12:30～
- 例会場:ホテルシーズン日南
- 事務局:日南市岩崎3丁目4番地1-2号 Itten堀川ビル2F 創客創人センター内
- TEL:0987-22-3363 FAX:0987-22-3515

第3384回例会	No.3	2024.7.17	
点鐘・ロータリーソング	12時30分 「日も風も星も」		
四つのテスト	竹井崇利 君		
ゲスト	西田誠悟氏 (九州電力 都城営業センター副センター長 兼九電ネクスト(株)日南営業所長)		
例会行事	会員卓話 西島元利君		

会長時間



7月は、母子の健康月間ということで、ある記事をご紹介したいと思います。
アブジャの11月、猛烈な太陽の下、友人の腕に寄りかかった妊娠中の女性が、中庭を横切ってレンガ造りの小屋に姿を消します。数分後、小屋の中から「いきんで、いきんで！」という声が聞こえてきました。数分が経過すると二人は再び姿を現しますが、今回は女性が友人が押す車椅子に座っています。もう一人の女性が、生まれたばかりの赤ちゃんを抱えて一緒に歩いています。車椅子の女性は苦しんでいる様子です。中庭の向こう側から看護師が走ってきます。「なぜ出産のために医療施設に来なかったのですか」と看護師は女性の血圧を調べながら嘆きます。ほかのヘルスワーカーたちも集まってきます。「出欠量が多い。彼女をここで死なせるわけにはいかない」と看護師が叫びます。看護師たちの懸命な措置もむなしく、女性は車椅子でうなだれています。看護師は天を仰ぎ、改めて警告します。「病院での出産が一番安全です。この女性に何が起こったか分かりますか？彼女は命を落としました。亡くなってしまったんです」数秒の沈黙の後、青いブルーシートの下に座っていた人たちから、木陰にいた人たちまで、中庭のあらゆる場所にいた人たちが大きな拍手を送ります。寸劇は大成功に終わりました。

この寸劇は、クチンゴロ・プライマリ・ヘルスセンターの中庭で行われたものです。ナイジェリアの首都・アブジャにあるこのセンターに、今朝は約 200 人が集まりました。看護師は俳優ではなく、ヘルスセンターの最高看護責任者であるビクトリア・オクエさんです。寸劇は、ナイジェリアでの出産における非常に高い死亡率についての認識を高めるためにロータリーが支援したワークショップの一部として行われました。ナイジェリアほど妊婦の死亡率が高い国はありません。2020 年には 82,000 人の妊婦と新生児の母親が死亡しました。これは、死亡率が 2 番目に高いインドの死亡数の約 4 倍です。この要因の一つは、ナイジェリアにおける出産の 60%以上が、ヘルスケアセンターまたは病院の外で行われており、母親や妊婦が出産に伴う合併症が起きた際により大きな危険にさらされてしまうことです。実際にこういったケースが多く発生しています。妊産婦の死亡の主な原因には、高血圧や臓器の損傷を引き起こす可能性のある合併症から発作が発生した場合の産後出血、閉塞性分娩、子癇が含まれます。助産師のアシェジ・デービッド・アルさんは、ほとんどの人が出産に伴う死を「神からの罰」だとか「何らかの魔術」だと考えていると話します。「しかし、実際はこういった合併症の管理が不十分であるための単なる過失行為からくるものです」現在、ロータリー財団からの 200 万ドルの大規模プログラム補助金で、まさにこの問題に取り組むための活動が展開されています。目標は、3 年間のプログラムの終わりに、対象地域の妊産婦と新生児の死亡率を 25 %減少させることです。このプログラムは、「ナイジェリアの家族の健康のための協力」として知られ、第 1860 地区（ドイツ）が第 9110 地区、第 9125 地区、第 9141 地区、第 9142 地区（ナイジェリア）と提携し、母子の健康のためのロータリー行動グループと協力して実施しています。この取り組みは、ナイジェリア三つの州と連邦首都特別地域内の対象地域で展開され、同国のロータリー会員によるこれまでの活動に基づいています。このプログラムの有効性が実証されれば、ナイジェリアやその他の地域でも同様の活動を実施できることが期待されています。重要なのは、ロータリー会員が連邦および州の機関と協力してプログラムを実施し、補助金サイクルの 3 年間よりもはるかに長い期間、介入とその成果が継続していくようにすることです。プロジェクトマネジャーのトヨシ・アデバンボさんは、「このプロジェクトがより多くのプロジェクトを生み出す」と話します。アデバンボさんは以前、米国国際開発庁（USAID）とその実施パートナー団体で、モニタリングと評価、管理、人事、プロジェクト管理などの職務に就いていました。2004 年、大学で統計学を専攻していたときにロータリーに入会し、後に One Nigeria ロータリー E クラブの会員となりました。大規模プログラム補助金について聞いたとき、自分もこの取り組みに参加したいと名乗り出ました。「10 年、20 年後にどうなっているかを考えたとき、今から関わっていきたく感じました」とアデバンボさん。中庭での寸劇の後、コミュニティヘルスワーカーのフェイス・ギデオンさんは、「Together for Healthy Families」と書かれた青いエプロンを着けてヘルスセンターを後にし、テレサ・アンドリュースさんの自宅へと、赤土の道を進んでいきます。第一子を妊娠中（5 カ月）のアンドリュースさんの向かいに座っているギデオンさんは、問題の兆候が表れたらすぐにクリニックを訪れるよう、アンドリュースさんに説明しています。「何か問題があった場合、よく分からないことが出てきたとき、赤ちゃんがお腹で動いていない場合など、いつでも連絡してください」ギデオンさんは、妊婦にとってのマラリアの危険性についても話し、アンドリュースさんに蚊帳を渡しました。彼女はまた、ベッドカバー、石鹼、臍帯に結ぶ紐、ゴム手袋、カミソリ、ガーゼが入った出産キットも手渡します。女性がクリニックで出産しない理由の一つは、自分で必要物資を持参しなければならぬために、もっと費用がかかるのではという認識があるためです。

ギデオンさんは、妊婦や母親を訪ねるために、週に3回はこの赤土の道を通っています。彼女は、昨年7月にロータリーが支援する取り組みを通じて2日間にわたって研修を受けた84人のコミュニティヘルスワーカーの一人です。これらの研修での優秀者は、今後自らが研修者となり、プログラム拡大の一翼を担います。ヘルスワーカーは、基本的な出生前および出生後のケア、妊娠の合併症、クリニックの紹介、在宅出産のリスク、現代の家族計画方法などのトピックについて学びました。また、出生前栄養、母乳育児、幼児期の予防接種、固形食品の導入時期などのトピックについて、妊婦や母親を教育する方法についても学びました。プログラム主催者は当初、これらの自宅訪問を四半期に3回実施することを計画していましたが、効果がすぐに表れたため、すぐに軌道修正しました。現在、ヘルスワーカーは週に3回自宅訪問を行っています。つまり、このプログラムにおける3年間の訪問数の目標を、最初の3カ月間で上回ったということです。ギデオンさんは次のように話します。「自宅訪問をすることで、相手の身になって色々と話すことができます。心地よい環境で話ができるため、ヘルスセンターへの訪問も奨励しやすくなります」とプロジェクトの効果を感じているようです。記事はまだ続きますが、本日はここまでの紹介です。このように素晴らしいプロジェクトがまだまだ増えていけるよう、我々は今、この日本で我々ができることをやらなければと強く思いました。この記事の続きが気になる方は、マイロータリーで購読できますので是非読んでみてください。参考までに、日本では令和3(2021)年人口動態統計(確定数)によると、令和3(2021)年において、妊産婦死亡率は2.5(出産10万対)、乳児死亡率は1.7(出生千対)、幼児死亡率は13.8(人口10万対)だそうです。

幹事報告

1. 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より、
”ハイライトよねやま No.292号”が届いております。

委員会報告

○奉仕プロジェクト委員会 8月6日(火)開催 道路愛護デー
6時30分 テクノセンター駐車場集合 作業時間30分程度

ガバナー補佐報告



峰松俊夫ガバナー補佐

ガバナー公式訪問例会についてですが、ガバナーは8月5日に日南に入られます。当日は宮崎東ロータリークラブの例会となっており、例会終了後に宮崎東ロータリークラブのメンバーと共に17時までに日南にお越しになるそうです。それから3日間ホテルシーズン日南に滞在される予定です。翌6日に日南中央ロータリークラブ、7日に日南ロータリークラブ、8日は串間ロータリークラブの予定ですが、串間は実質2名しかいないので受け入れが難しいという話もありましたが、河野幹事にそういう状態であればなおさら受け入れてほしいとお願いをしましたら、受け入れを承諾した頂けることになりました。8日にホテルを出られますが、串間には私がお連れします。ガバナーの歓迎会については会長幹事にお願いをしましたのでよろしくお祈りします。それから、今年度のインター

シティーミーティングは宮崎県南部グループの担当でしたが、こういう状況ですので大変だろうということで宮崎中部グループと合同でやることになりました。期日は11月17日(日)、場所はシーガイアサミットホール、時間は10時から12時までです。内容についてはこれから詰めていきますが、皆さんこの日程を空けていただき是非参加をしていただきたいと思います。

例会行事

会員卓話 西島元利君



重心領域から創出するソーシャルキャピタルとリンクした地方創生

- 愛泉会日南病院の挑戦 -

私の履歴書

出身：福岡県北九州市

小学生の時のいじめを受けた経験→弱い立場の人を助けられる人間になりたい

小学生の時から全国を旅して様々な方にお世話になった経験→過疎地域を活性化する取り組みに関わりたい

東京ディズニーシー、エキストラ俳優業、様々な職業を経験→幸せと感動とは何かを追求したい

2012年：東京から日南市へ移住→愛泉会日南病院入職

「愛泉会日南病院について」

- ・ 重心病棟：計3病棟（126床）
- ・ 一般病棟：計1病棟（58床）
- ・ 外来→一般内科・血液内科・整形外科・発達障害専門外来
- ・ 疾病制御研究所併設
- ・ 職員数→計200名（医師7名、看護師83名、等）

重症心身障害（以降：重心）とは

- ・ 「重度の肢体不自由」と「重度の知的障害」とが重複した状態。→医療的ケアと介護がなければ生きていけない
- ・ 原因となる病気：脳性麻痺、水頭症、低酸素脳症

- ・全国で約8万人・宮崎県内で約700名（令和5年度推計）
- ・重心医療型入所施設：全国に約200施設 県内では当院と国立宮崎病院のみ（計240床）→常時満床

「重心」の現実



一度、入院をされるとほぼ全ての方が生涯を終わられるまで院内で過ごされる。

→私達は患者さんの「命」だけでなく人生をもお預かりしている。

→お一人おひとりの人生が少しでも輝くように「生きがいと喜びの高まり」にコンセプトをおいた様々な取り組みを行いたい。

「愛泉会日南病院に来た当初に見た現実」

親代わりに近いスタッフの入所者に対する愛情はとても深い。

でも・・・

- ・閉鎖的すぎる
- ・地域に助けってもらって当たり前の心持ち
- ・単調な療育活動&行事
- ・人手が足りないと言ってるのに何も工夫していない
- ・情報発信がほとんど無い

「日南市の課題について」

- ・人口：約47000人（直近10年間で7000人減）
- ・高齢化率：約37%
- ・中学卒業時&高校卒業時に大幅な転出超過

※市内看護学校卒業生の9割は県外へ就職 →過疎化の進行&慢性的な人材不足

「愛泉会日南病院に来た当初に見た現実」 × 「日南市の課題」

あまりにも課題が多すぎる。

お先真っ暗。

このままだといけん。

何とかしないと・・・

まず取り組んだ事

- ・福祉の原点を学ぶため →社会福祉士国家資格を取得

- ・細やかな情報発信のため →FB やインスタ開設、HP の更新、ポスター作成
- ・地元の課題に取り組むため →日南商工会議所青年部（YEG）に入会し積極的に活動
(H29 年度日本 YEG 代表理事、R 1 年度日南 YEG 会長等)

福祉（地域福祉・地域包括ケアシステム）に求められるもの

「自助」 「互助」 「公助」

「自助」

社会福祉法第3条→

福祉サービスは個人の尊厳の保持を旨とし、その内容は、福祉サービスの利用者が心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ「自立」した日常生活を営むことができるように支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならない

自分の進む人生、自分らしさは自分自身で決める。

活動は難しくても、そういう心持ちになるだけでも、その人の人生が違ってくる。

原則、施設内のみという、環境的にも身体的にも活動領域がどうしても狭められる重心の方達だからこそ、その人生が輝いたものになるように「自助」の心を育む努力を行うべきではないか

「全国初の重心施設での不在者投票の実現」



投票誘導のおそれがある事からなかなか実現できないのが現状しかし・・・

参政権・選挙権の権利行使を通じた社会への参画の意志を自ら示された

→自助（自立）の心の芽生え

→人として「当たり前」の道を歩む

「互助」

その人らしさを追い求めるには施設スタッフの知識や経験だけでは限界がある。

よって地域の方達をはじめ、様々な外部の方の力が必要。

でも・・・

受けた恩を私達は、その方達にお返しできているのか？

一方的に助られているだけではないのか？

一方的な支援が続くと・・・マンネリ化・形骸化・信頼関係も薄れる→支援の幅も領域も質も限られてくる

バランスのとれた機能性&効率性の高い互助の実現に必要な概念＝「ソーシャルキャピタル」

ソーシャルキャピタルとは・・・

人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

ソーシャルキャピタル構築のために必要な事

①「信頼」構築のために

簡単でもいいので、まずお互いの領域や課題を知る、もしくは知ってもらえる環境を整える。

②「規範」構築のために

相互に利益のある「互酬性」がある関係を目指す事がポイント

- ・同等価値のものを同時に交換
- ・その時点では不均衡でも将来、均衡が取れると期待できる交換

③「ネットワーク」構築のために

相互利益を目指した相互関係の力を発揮させていくには、顔をつき合わせた横並びの水平的ネットワークが重要。

「地方創生とは」

各地域が少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの特徴を活かして自律的で持続可能な社会を創ること。

限られた資源・特徴の中で過疎化の進む日南市において

「地方創生」のために必要なもの＝「ソーシャルキャピタル」

当院が目指す「重心×ソーシャルキャピタル＝地方創生」の構築

- ① : 重症心身障害の領域をまず知っていただく→「**信頼**」
- ② : 重心の方の生きがいづくりに直接関与→「**ネットワーク**」
- ③ : ②を関わる方々や地域の課題解決にリンク→「**規範・互酬性**」
- ④ : 未知の領域へのチャレンジ～達成感の創出→「**規範・互酬性**」



「互助を通じた、重心の方の自助の心の育み→生きがいの高まり」

「地域の人材育成・課題克服・新たな挑戦への誘い」

PJ①「重症心身障害領域で全国初の本格的な演劇上演」

愛泉会日南病院×宮崎大学学生×教育委員会×報道機関

舞 台：全国障害者芸術文化祭 in 宮崎 準備期間：令和2年4月～令和3年11月

脚本原作：当院研修医 監督指導：宮崎大学演劇部の学生 脚本監修：宮崎大学文藝部の学生

後 援：日南市教育委員会 取材協力：NHK、テレビ宮崎、宮崎日日新聞

PJ②「キャリア教育事業」

当院×市内小中高等学校×各企業団体

- ・重症心身障害という特異な領域の認知
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・郷土愛の育み
- ・弱い立場の方達を支える心の育み
- ・専門職領域への直接関与による自信の創出
- ・将来の医療福祉人材の確保

PART 1：当院入所者との交流事業（小学校3年生～）



PART 2：職業体験イベント

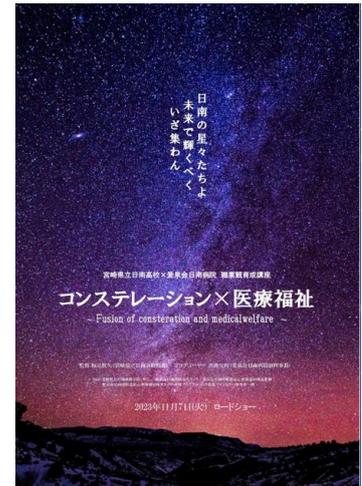
（市内小学校5年～中学1年生） ※商工会議所青年部と連携



（市内小学校5年～中学1年生） ※広島東洋カープと連携



PART 3 交生との医療福祉プロジェクト (市内高校1年～3年生)



PJ③ Jリーグチームとのスポーツ交流

愛泉会日南病院 x テゲバジャーロ宮崎

- ・プロサッカー選手との交流を通じて
スポーツの楽しさ・真髄を体感
- ・選手を身近に感じ、応援する
土壌の創出
- ・Jリーグの理念「社会・地域貢献」
- ・チームの地域浸透のための関わり
(スタジアムDJ・アドバイザーサポート)



PJ④ ローカル鉄道活性化 x JR 日南線貸切列車の旅

愛泉会日南病院 x JR 九州 x 日南学園高校

- ・鉄道の旅を通じた非日常体験
- ・経営難のローカル鉄道の利活用
- ・当院以外での鉄道活性化 PJ 実施
- ・高校生に企画から関わってもらう事での主体性の育みと
地域課題への関心の高まり



- YOROCORDE PROJECT - 服のチカラで明日への活力を

愛泉会日南病院 x ユニクロ

- ・自身の目で見えて触れて感じて選んだ服をコーディネートして自分のスタイルを見つけて生きがいや喜びにつなげる。
- ・ユニクロ本社と提携して、通常困難な移動販売とコーディネートサポートを実施。





病院内で教育を受ける環境を構築

愛泉会日南病院×県立くろしお支援学校

- ・人は誰でも教育を受ける権利がある
- ・学ぶ喜びや苦勞を通じて人生のステップアップにつなげる
- ・病院内に支援学校の分教室を設置
- ・学校評議員として運営にも参画



リクルートへのつながり

- ・地元への重心施設としての浸透
- ・多くの方々の当院への直接関与
- ・地域貢献に対する評価
- ・メディア等を含めた高頻度の情報発信
- ・新しい取り組みに対する興味
 - 新卒看護師が毎年複数名入職
 - プロジェクトを通じて医療従事者を目指すに至った子もいる



今年度の取組みについて

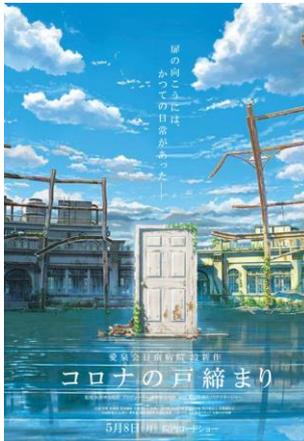
- ・医療留学制度の創設 →若手看護師に様々な診療領域を経験する機会を作る
- ・生成 AI と chatGPT の導入 →診療録作成等の事務的作業の負担を軽減し、空いた時間を患者さんとの1対1の時間に充てる
- ・サテライト施設の立ち上げ→宮崎市内の在宅重心のケア充実と人材募集の拠点

重心施設として・・・

私達は入所者一人ひとりの人生をお預かりしている。そのかけがえのない人生を少しでも輝いたものにできるよう一人ひとりが「生まれてきてよかった」「頑張ってきてよかった」と思ってもらえるよう、入所者だけでなくスタッフも関わる方達も一緒に深い感動を共有できるよう、その夢と物語を、地域の未来も見据えながら紡いでいく関係でありたい。

「コンステレーション ～ constellation ～」

- ・もともとは「星座」を意味する英語
- ・心理学では 一見、無関係に、偶然に配置されているとしか思えない数々の出来事が、繋ぎ合わせて見てみるときに、思いがけず全体的な意味のあるひとつの世界として立ち現れてくる



スマイル

甲斐 信之君

コロナに感染し、ご迷惑をお掛け致しました。また、先週は、職員の逮捕が報道され、ご心配ひらびにご迷惑をお掛け致しました。申し訳ございません。

日高章太郎君

早退させていただきます。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	H C出席	MU	欠席	出席	出席率(%)
今 週	29	7 (3)	26	22	0	4	22	84.61%
出席免除	落丸、清水、渡邊							
先取MU	なし							
欠 席	榎木田、齋藤奈々、花盛、古澤							

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：築瀬 敦 副会長：斉藤篤史 幹事：石灘寛樹 雑誌会報広報委員長：菊池希樹

雑誌会報広報委員会より

情報、原稿は、admin.pmy06@honda-auto.ne.jp まで送信してください。

『ロータリーの友』 2024年7月号



『ロータリーの友』2024年7月号、見どころは、

- 表紙 国際ロータリー会長・ステファニー A. アーチックさん
- 特集 RI会長紹介「The playmaker」
- 特集 母子の健康月間「愛情が支える活動」
- 全国34地区ガバナー紹介「ガバナーの横顔」
- 「SPEECH」
「世界に誇れる厚岸が育むウイスキー ローカルからグローバルへ」
堅展実業（株）代表取締役社長 樋田恵一氏の講演趣旨
- 「この人訪ねて」
赤沼健至さん（松本ロータリークラブ）
- 新コーナー「ロータリーあるある相談室」
などなど

電子版 <https://www.rotary-no-tomo.jp/> のご案内

ID:2730-00137

PW:00137-241